

キャラクター名
九石 真琴 (さざらし まこと)

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー キュマイラ	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプション		年齢	17	性別	女
覚醒	死	衝動	嫌悪	初期侵食率	35 %
出自	名家の生まれ	経験	裏切られた	邂逅	師匠

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	36
肉体	4	1	2			7	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	1	0	1			2	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2	5	射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
襲撃する番狼<クロウ・オーダー・レイド>	白兵	7r+7				100↓ C8(コンセ)攻+14(爪)+装甲無視+HP12(主)
		0				100↑ C7(コンセ)攻+15(爪)+装甲無視+HP16(主)
		0				
女の紅こそ我が命<ライフ・オブ・クリムゾン>	白兵	7r+7				80↑100↓ C8(コンセ)攻+14(爪)HPダメージ+15 (生命) 装甲無視+HP27(主)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タメ	消費
精鋭: 白兵	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセ:ブラムストーカー	2	2						
効果:	いつもの							
破壊の爪	6	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	素手→白兵、命中0、攻撃力+(Lv+8)、ガード1、至近							
ハンティングスタイル	3	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	戦闘移動。離脱可能。Lv回/シーン							
乾きの主	3	4	メジャー	至近	単体	白兵		
効果:	装甲無視、HPLv*4回復。素手かく「赫き剣」のみ。							
生命吸収	5	4	メジャー		単体	シンドローム	80↑	
効果:	組み合わせて1点でもダメージ→Lv*3のHPダメージ、その分自己回復、シナリオ3回							
ターゲットロック	3	3	セットアップ	視界	単体	自動		
効果:	シーン中選択した単体のみに攻撃する時に攻撃力+(Lv*3)							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

▼卓内傾向
いつか使ってみたい。殴るしかできません。

▼成長目標
まず攻撃力増加とダイス増加が欲しい〜〜切実……
朱色の大斧とかかな……

▼参加シナリオ
ない

▼UGNチルドレン、九石真琴

物心ついたときから、UGN、そしてオーヴァードという存在は身近なものだった。何故かといえば、実家がUGNを支援していたからだ。見返りとしてはオーヴァードの力を使った細やかなリトルマジック。幼い頃の私は彼等を魔法使いだと思っていたし、もっと物事を理解できるようになったときには、私もオーヴァードになりたいと思っていた。

実際、両親はUGNの覚醒実験の素体として何度も私をUGNの研究所に連れていった。だけれども、私が覚醒することはなかった。両親はがっかりしていたし、それも輪をかけて、夢を諦めざるを得ない私も落ち込んでいた。そう、私は、正義の魔法使いにはなれなかった。

すべてが一変したのは、とある夜のことだった。

両親が仕事で遅くなるからと言って、珍しく家に一人だったとき。私はご飯を電子レンジで温めて食べて、それから、学校のテストが近いから黙々と勉強をしていた。世間一般から見たら、お金持ちと言われる家だ。庭を挟んだ外からは、犬の鳴き声だて聞こえてこなかった。だから、突然ぐらりと気持ちが悪くなって、胸が苦しくなったときに、突然響いた窓が割れる音が、世界が壊れる音にさえ聞こえた。

やってきたのは何人かの人間、いいや、オーヴァード……あるいは、ジャームだった。私を見つけて、楽しそうにその力を奮った。怖い。助けて。私の声は届